

建築士 やまなし

No.79

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



●目次●

年頭のごあいさつ

一般社団法人 山梨県建築士会 会長 雨宮健一… 2

県政功績者表彰を授与されて

都留支部 渡辺 譲…………… 3

国土交通大臣表彰を授与されて

甲府支部 望月雄二…………… 4

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部 伊藤吉夫…………… 4

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

韮崎支部 前島治文…………… 5

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部 長田正彦…………… 5

プロジェクトA 貢献者達

甲府支部青年部長 遠藤恭範…………… 6～7

第4回 山梨県建築士の集い 開催について

実行委員長 小田切崇…………… 8

令和2年度山梨県地震防災訓練

(市川支部 被災建築物応急危険度判定訓練)

事務局…………… 8

事務局よりお知らせ…………… 9



イラスト 千野幹雄(中巨摩支部)

年頭のごあいさつ

一般社団法人 山梨県建築士会

会 長 雨 宮 健 一



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスに始まり、新型コロナウイルスで終わりました。年明け早々に取り上げたくない話題ですが、触れざるを得ません。

新型コロナウイルス感染症の流行は全世界を覆い、ついに2020年の東京オリンピック及びパラリンピックは延期となりました。首都圏、京阪神圏、福岡、北海道などの大都市圏を中心に新型コロナウイルス感染者数は増大し、既に感染範囲はほぼ全国に拡大しています。全国の都道府県では、人々が密接、密集、密閉の中での行動を控える生活を強く求めています。

建築士の皆様は建築の設計、工事監理、施工、メーカーでのものづくり、教育、研究、コンサルタント、行政等さまざまな分野で活躍されていますが、会合の延期や中止、材料の調達に滞り仕事が捗らないなどと、日常生活にも大きな影響が生じていることと推察しています。

日本建築士会連合会でも、国土交通省及び厚生労働省等の情報についてホームページや各県単位建築士会を通じ詳細な情報をできるだけ早く会員の皆様にお届けする努力をしています。

令和2年度の「建築士定期講習」に対しましても、講習の実施がやむを得ないと考えられる特別な事情が存する場合を除き、昨年6月末まで、実施を控えるよう国土交通省より要請があ

りました。また、管理建築士講習に係る登録講習機関につきましても、早期の建築士事務所の開設を予定している等、特別の事情がある講習の受講予定者がいる場合を除き、昨年6月末まで不要不急の受講を控えていただくよう、講習受講予定者に周知する旨の要請がありました。

なお講習を実施する場合においても、講習受講者、講師及び職員への感染拡大防止に万全を期すとともに、新型コロナウイルス感染症の感染者があることが判明した場合には、速やかに、都道府県等の保健所等の指導に従い、適切な措置を講じるよう通達がありました。

その後7月以降は、感染拡大防止策を徹底しながら講習会の実施が行われていますが、今後も予断を許さない状況にあります。今後の建築士会からの発信等を注視して戴きたく存じます。また、会員の皆様が直面している課題や要望につきましても、建築士会にお知らせいただければ、その声を検討し、関係部署に届ける準備もしています。

建築士会も連合会などとの会合は、可能な限り、テレワークなどで直接の接触の機会を減じ、感染の拡大を防ぎたいと対処しています。会員の皆様もしばらくは、仕事や日常生活の面で、厳しい状況が続くかもしれません、この非常事態を乗り切って戴きたいと願っています。

最後になりましたが、建築士会の皆様にとってより良い一年でありますように、更なる皆様のご支援・ご協力を御願い申し上げ年頭の御挨拶とさせていただきます。

県政功績者表彰を授与されて

都留支部

渡 辺 讓



令和2年11月20日 県民の日 山梨県県政功績者の表彰を授与されました。当日は受賞された47名ひとり一人に長崎知事より賞状が手渡され、心地よい緊張感のなか、晴れがましい嬉しさとありがたい思いで頂戴してまいりました。

山梨県建築士会では法令遵守、応急危険度判定、耐震啓発、地域貢献まちづくりといったプログラムを積極的に取り入れ活動しており、これらの活躍が県政への功績と認められ、今回の表彰に至ったものと理解しております。これは本県建築士会会長をはじめとする事務局、当該委員会の方々のお力、何より会員の皆様の不断の努力のたまものと心得ております。私は本会の副会長として、皆様に成り代わり受賞させていただいたものと、ただただ感謝する次第です。

私が建築士会に携わったのは富士吉田の設計事務所に在籍中でした。本会や北富士支部の行事にも参加させていただき、建築士としての自覚が芽生えていきました。その後地元都留市に事務所を構え、北富士支部の皆様との活動や交流に勤しんだことが懐かしく、良い思い出となっております。平成8年都留支部結成の折には、建築士会の活動に意欲的に取り組んでおられた秋山さん(惜しくも故人とされました)を筆頭に、皆が熱く意気軒高に新クラブ創立に向かっていました。都留アピオで行われました結成記念式典では司会を仰せつかり、その情熱をぶつけるように恥ずかしげもなく喋っていたことが脳裏をかすめます。支部活動での楽しみはやはり全国大会への参加です。支部会員の皆様と長野大会(と記憶していますが)から参加して

おり、その時々ドラマが浮かんできます。また、スポーツ大会は会員の繋がりにとって重要な行事です。新しいところでは7年前、都留支部担当の大会。至らない支部長の私でしたが、皆の頑張りでつつがなく終了させられました。当日未明は雨模様で開催が危ぶまれましたが、大会時間中だけは青空も見え、私たちの気持ちに通じた一場面でした。次の担当開催は今から4年後、準備を怠らず結束して当たりましょう。

現在は本会理事・研修委員長として建築士定期講習やインスペクター講習といった建築士のスキルアップに関わる講義の手伝いをさせて頂いており、今後も継続してその任に当たります。

当研修委員会の組織に「街中(空き家)まちづくり」があります。知人から託された築70年になる和風住宅をゲストハウス・コミュニティカフェとしてリノベ活用していますがその運用が大変です。都留文科大学学生との協働で5年が経ち、更なる地域への溶け込みを画策しています。新しい空間活用の提案がこれからの空き家対策の一助となればと思っております。いまコロナ禍で大変な時期ですが、「神は乗り越えられない試練は与えない」と言います。共に頑張りましょう。

70歳の節目の年。この受賞を励みとし、皆様への感謝の気持ちを忘れず建築士会活動に精進してまいりますので、ますますのご厚情、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。皆様のご健勝を心よりお祈りし、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

国土交通大臣表彰を授与されて



甲府支部

望 月 雄 二

この度、令和2年建設事業関係功労者として国土交通大臣表彰を賜りました。今まで多大なるご支援をいただきました山梨県建築士会の会員及び事務局、関係行政機関の皆様にご心より感謝を申し上げます。

国土交通省の本庁舎大会議室において、厳粛な雰囲気の中で執り行われた表彰状の授与式に出席してまいりました。例年であれば、表彰発表の7月10日と同日だそうですが、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため延期され、初冬の霜月、11月25日の開催でした。

白髪三千丈 愁いによりてかくのごとく長し

知らず明鏡のうち 何処より秋霜を得たる

李白の晩年の作、『秋浦歌』。白髪が三千丈(約9km)も伸びるはずもなく、中国式の誇張表現ではあ

りますが、宮廷を追われ諸国を流浪した歳月の長さを感じさせる漢詩です。李白とは比較にならずとも、最近ふと鏡を見ると、どこからこんなに秋の霜が降りてきて頭髪が真っ白になったのかと驚くばかりです。

学生時代から数えれば、建築に携わってから40数年が経過しました。栄誉ある大臣表彰が、ただその年数に対してのみ評価されたとしたら、心苦しく思います。これを機に、この賞の本来の価値に少しでも近づけるよう、更なる精進・努力をしなければならぬと考えておりますので、今まで以上に皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後に、山梨県建築士会の益々のご発展と会員各位のご健勝を祈念申し上げ、御礼の挨拶とさせていただきます。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて



甲府支部

伊 藤 吉 夫

この度、令和2年度日本建築士会連合会長表彰を賜りました。昨年は年明けからのコロナ禍により、広島での全国大会は延期となり、山梨県建築士会理事・監事会議において、雨宮会長からの伝達となりました。推薦頂いた雨宮会長を始め、理事並びに事務局の皆様、全ての会員の方々に深く感謝申し上げます。また大会ではなく、日頃お世話頂いている地元の会員の前での授賞は、事更に高い緊張感を覚えました。

私が建築士になったのは49年前となります。好きな建築家は、作品も生き方もアントニオ・ガウディです。

建築士会へは当初より入会いたしました。青年期には富士吉田支部に、壮年期からは甲府支部に所属して今日に至っております。建築士会を通じてお会いする方々は、造詣が深く活動的で多くの刺激を頂きました。

至らない私を多くの方に導いて頂き感謝申し上げます。

近年は国の施策もあり、耐震診断での活動が多くなりました。阪神淡路大震災の際、兵庫県三の宮駅にたどり着き、駅前ビルの層崩壊していた姿に、一瞬腰を抜かしてしまいました。大小の被害現場を歩き廻り建物が壊れる原因は…？ あの日から構造設計に多く関わるようになりました。

山梨県では諸先輩方の対応も早く、都立大学西川先生を委員長に招いて山梨県建築物耐震診断判定会を創設し、ご尽力賜り、耐震診断率は全国で常にトップクラスで推移して来ました。木造住宅もしかり、現会長の雨宮様が軸になり国からの要請に対応出来る判定組織を造り、各会員のボランティア精神で木造住宅無料診断が成り立っております。

会員の皆様のご多幸を祈念申し上げ、筆を置きます。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

菟崎支部

前 島 治 文



この度、会長及び事務局よりの推薦により、連合会長表彰を頂きました事、心より御礼申し上げます。

本来ですと、広島で行なわれる第63回建築士会全国大会にて頂く事になっておりましたが、いつ終息するのかなかなか先の見えないこのコロナ禍により、昨年の全国大会は中止（広島大会1年先送り）となり、12月4日の理事・監事会議の中での伝達式にて頂いたところです。

私が建築士会に入会したのは約35年前で、今までただ忙しく建築の仕事をしてきたというだけで、「建築士制度の発展と社会公共の福祉増進に貢献した」などという自覚は全く無く、ただただ恐れ多く感じておりますが、支部役員を長く勤めたと

いう事が対象理由と聞いております。

昨年からのこのコロナ禍により、私達が今まで経験した事の無い生活形態が望まれ、例年行なわれている全ての行事が縮小もしくは中止となっており、会員の皆様それぞれ辛い毎日をお送りの事と思います。

建築の仕事に於きましても、それぞれご苦勞されている事と思います。しかし近い将来、必ずや日常の生活が戻ってくると信じ、私自身誠に微力ではありますが、この表彰を機に改めて建築を通して社会に貢献出来る様、新たな気持ちを持っていきたいと思っております。

最後に、会員皆様の更なるご活躍と建築士会の益々のご発展を願いお礼の言葉と致します。

日本建築士会連合会長表彰を授与されて

甲府支部

長 田 正 彦



日に日に寒さが増す中で例年であれば、新年会などで膝を交えたいのですが、今年は年頭から難しい判断をしなければなりません。

グローバル化の中でコロナ禍は「世界は一つ」で、繋がっているという事を実感させられました。また三密を避ける為に人との交わりが制限される状況において、改めて人は一人では生きていけず、人との繋がりが不可欠であると再認識した次第です。

私も長年、福祉委員として努めてまいりましたが建築士会全国大会も延期、また、恒例のスポーツ大会も中止となり、建築士会会員の皆様との連携が図れる機会を失った事が残念でなりません。

「禍福は糾える縄の如し」の言葉のように、困難があってもそれが永遠に続くことは無く必ず好転します。感染者の数字に一喜一憂することなく、長い

目で難局を乗り越え来年こそは会員の皆様方との出会いが増えることを期待しています。

今回、表彰をしていただくにつけ、先代の渡辺会長からのお誘いにより、建築士会に入会させていただいた当時から現在に至るまでを思い起こす中で、渡辺前会長、雨宮会長などの良き指導者に恵まれ、ここまで来ることが出来たと思っております。

この栄誉は私個人の力ではなく、これまでご指導・ご協力して頂いた多くの諸先輩の皆様方のお陰であると感謝しております。

今回の受章を糧にして、これからも山梨県建築士会の発展のために微力ではありますが努めてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

この度は有難うございました。

甲府市協働支援センター
研修室リフォーム計画
～ 甲府支部青年部 ～

プロジェクト

貢献者たち



改修前

Glass Eye Inc.



改修中

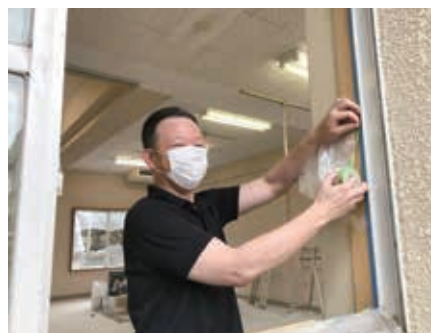


改修後

Glass Eye Inc.



作業風景



作業風景



作業風景

山梨県建築士会甲府支部青年部の仲間が、甲府市役所まちづくり部施設整備室公共施設保全担当の網野課長から声を掛けられたことがきっかけでした。甲府市役所西庁舎内の一部を、協働によるまちづくりを支援する拠点施設となる甲府市協働支援センターとしてオープンする。その一室であり研修室となる部屋のリフォーム工事をしてくれる方々はいないかな？という内容でした。(甲府市役所西庁舎とは2005年に閉校した旧甲府市立穴切小学校校舎で、2010年～2013年の間は甲府市役所建替えに伴い「穴切仮庁舎」として使用していたものを、引き続き使用している築後40～50年程であろう鉄筋コンクリート造3階建ての建物です。)

予算はゼロ、納期約45日という条件です。声を掛けられた仲間の脳裏には甲府支部青年部の面々の顔が思い浮かんだようで、現在甲府支部青年部長を務めている僕の所へ連絡がきました。厳しい条件だな…と思いましたが、ここ数年間苦楽を共に事業を遂行してきた甲府支部青年部のメンバーなら期待に応えることができる！と、根拠のない安心感から自信を持って引き受けることにしました。

数年間空き室となっているリフォーム対象の部屋を確認した初回ミーティング時、「こりゃあえらいこんだぞ」「んなもんおれんとうだけじゃ終わらん」「予算を出せし」と、甲府支部青年部メンバーの言いたい放題が功を奏し、甲府市役所職員も一緒に作業をしてくれるというお約束をいただくことができました。振り返りますと、ここで駄々を捏ねたことが官民連携の協働作業に繋がり、この事業に深みを持たせたターニングポイントだと思えます。

こうして、穴切小学校、アーキテックツ、網野課長率いる網野組の頭文字を取り、団塊ジュニア世代が敬愛するムービースター、ジャッキー・チェンの代表作に敬意を表し「プロジェクトA」という名のボランティア事業がスタートしました。作業がスタートして感じたことは建築士の職能は多岐にわたり高度であるということです。短工期でのスケジュールリング、素材や色彩の迅速な決定、予算ゼロでの資材調達、施工の手順。それぞれの部分にそれぞれの専門家がいる、それらが連携して物事を進めることができる協調性の高さ。作業自体は普段動かさない体を酷使す

A

PROJECT A Volunteers

甲府支部青年部長 遠藤 恭範

るので、首・肩・腰に痛みを感じることもありましたが、思考的にストレスを感じることがないのでスピード感をもって爽やかに進めることができました。また、作業には市役所まちづくり部の職員のみならず、協働支援課の職員や財産活用課長、公共施設マネジメント担当課長も参加され、施設を管理し活かす立場の方にとっても愛着が湧いたかと思えます。作業は平日の夕方や土曜日、日曜日に行いましたが、手帳に記録していた甲府市青年部会員の出面だけで53人になりました。協働した甲府市役所職員の出面も合わせれば100人程になっているでしょう。実務で繋がることはあっても現場作業で共に汗を流すことになるとは、作業後のビールの旨さも相成って、官民連携について夜更けまで語り合ったことも大きな収穫でした。夏期のコロナ禍で進行するプロジェクトでしたので、体調管理や新型コロナ感染に不安もありましたが、施工専門のメンバーから作業現場での健康管理や感染症対策についても学び、知ることができました。

魅力と活力に満ちあふれたまちを目指して、市民の皆さんが地域で思い切り活躍できるように、さまざまな角度から支援をしていく施設「甲府市協働支援センター」の研修室が出来上がりました。その苦勞の甲斐あり、この事業が市民協働の伸展に貢献されたと認められ、令和2年度甲府市善行章を表彰していただきました。参加メンバー皆で嬉しくなり、またまた美味しいお酒いただくことができました。

唯一、腑に落ちないことは、我々の「プロジェクトA」は一切メディアに取り上げられないのに、同センターエントランスに壁画を手掛けた南米出身女性アーティスト達は高い頻度でメディアへ登場している現実です。対策として職能を磨くだけではなくビジュアル面も強化していかなければならない甲府支部青年部です。

末筆ではございますが、毎度、青年部のわがままな事業を寛大に見守っていただき、青年部の活動に予算をつけていただいております山梨県建築士会甲府支部の先輩方、資材を提供して下さったアイカ工業株式会社及び菊水化学工業株式会社、協働していただいた甲府市役所の方々に深謝を申し上げ、筆をおきたいと思えます。

旧 穴 切 小 学 校 ア ー キ テ ク ツ 甲 府 市 役 所 網 野 組

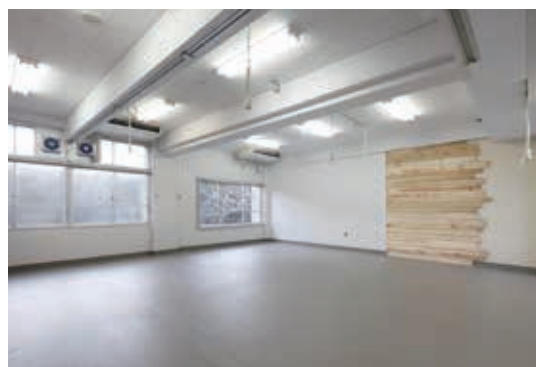


改修前

Glass Eye Inc.



改修中



改修後

Glass Eye Inc.



善行章表彰式



完成時集合写真

プロジェクトAのメンバー（50音順）

甲府支部青年部

遠藤 恭範・岡 隼人・小田切 崇
齋藤 啓文・高相 正樹・利根川 哲也
渡邊 貴至

甲府市役所網野組

網野 淳也・鈴木 裕之・名取 瑠
埴原 一・前嶋 大地

撮影協力：GlassEye Inc. / 海老原 一己

誌面編集：高相 正樹

第4回 山梨県建築士の集い 開催について

実行委員長 小田切崇

青年部会では、年に一度のペースで「山梨県建築士の集い」を開催しています。実行委員会では年々積み重ねてきた経験と反省を糧に、山梨県内の建築士が一同に集い、見て・学び・交流する場の充実を図っています。

今回は、令和3年2月27日に山梨県立図書館イベントホールにて、様々な分野で活躍する建築士の地域実践活動報告、新しい仲間となった建築士の方々の免許証交付式、そして「リノベーションから始まるコミュニティ・デザイン」をテーマに、パネルディスカッション形式にて、韮崎市アメリカヤの取り組みなどを学べる企画、交流する機会となる大懇親会を行う予定でした。

しかし、未だ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、先が見えない状況となっています。そのような中で、青年部で協議を重ねた結果、皆様方にお集まりいただき開催する事は、感染症拡大防止の観点から難しいと判断いたしました。

いつも通りの開催はできませんが、現在WEBでの動画配信という形で準備を進めております。内容も見直し、大変残念ですが、免許証交付式及び大懇親会は執

り行わない事とさせていただき、地域実践活動報告及びパネルディスカッションについては動画配信させていただき予定となっております。視聴方法や詳細等については現在準備中です。今後は最新情報をホームページでお知らせしていきますので、ご確認ください。

新しい方法を模索していき多くの方に見ていただけるような、充実した開催となるよう努力しておりますので、是非ご視聴いただきますよう宜しくお願い致します。

※最新情報は、ホームページでご確認ください。

<https://seinen.ykenchikushi.org/yamanashi>



令和2年度山梨県地震防災訓練（市川支部 被災建築物応急危険度判定訓練）

—事務局—

11月22日(日)に「被災建築物応急危険度判定訓練」が実施され、渡辺市川支部長はじめ判定士の資格を有する会員8名が参加しました。午前9時から鯉沢中学校の技術科室に集合し、座学による応急危険度判定の講習と、町営東田団地で応急危険度判定の実施訓練を行いました。訓練の冒頭、県の建築物防災対策監が「応急危険度判定は大地震により被災した建物の被害状況を調査して、二次災害を防止する重要な活動。判定士の状況は高齢化が進み減少傾向にあります。若い人材の育成などを含め訓練実施にご協力をお願いします。」と挨拶し、講習に移り応急危険度判定の目的や地震発生後の判定士要請

の流れなど、RC造やS造といった構造別に被災した建築物の写真を見ながら、A～Cランクに分けた応急危険度を判定していく方法や事例を動画で確認しました。その後、災害対策本部から判定士出動の要請を受け、応急危険度判定の訓練が行われ、目視による外観や落下転倒の危険度などを「判定調査表」に状況を記入しながら、調査における一連の流れを2人1組体制で行ないました。調査後に建物の危険性を周知するため、「調査済(緑色)」「要注意(黄色)」「危険(赤色)」の3種類に色分けされた「判定ステッカー」を建築物の目立つ場所に貼り判定訓練は終了しました。市川支部の皆様ご苦勞様でした。

